

令和元年度 大田区立道塚小学校 自己評価 報告書

令和2年3月11日

○ 本校の概要

<p>①平成30・31年度大田区教育研究推進校 研究主題「自分の考えをもち、学び合う児童の育成」～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善～11月19日(火)発表 ②本校の教育活動の特色 ○算数科における習熟別指導別指導に重点を置く。○ゲストティーチャーと連携した体験授業を推進する。</p>
--

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生き残る力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:保護者アンケートによる「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」への満足度が90%以上 3:保護者アンケートによる「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」への満足度が80%以上 2:保護者アンケートによる「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」への満足度が60%未満	◎保護者アンケートでは、子供たちに分かりやすい授業としていたと答えた保護者は、85%であった。昨年の81%より+4%となった。研究発表を通して、ICT活用の教員のスキルがアップしたことによって、分かりやすい授業が実施されている。 ●今後タブレットを活用した児童自身が操作して学ぶ授業づくりをするために、教員研修を実施したい。 ○体力テストについての結果は、である。また、全体で取り組んでいる縄跳びについても、指導方法を外部講師に伝達研修してもらっている。	「社会起業家」という職業が現れたように、今の子どもたちが社会を担う頃には、現在にはない職業に半分の人が就くことになるのではないかと聞いている。学校の努力が子どもたちの生きる力に結びつくことを願う。外国語活動ではALTと担任のコミュニケーションが良いモデルになっている。 ・ICTを使った授業を見学し、これからのスピードの速さを感じるとともに、先生と児童との距離感をなくすることと理解度の確認を学びました。 ・タブレットの活用は今後ますます必要になるので、正しい情報の活用方法を児童に教えて欲しい。 ・ICT使用による学習意欲の高まりには大きな期待をもつ。ただし、創造力の欠如につながることも懸念している。先生方におかれましては現状に取り組みICT指導をよく対応していると感じました。 ・互いの違いを認め合うことでコミュニケーション能力を高め、共に生きる力を育みたいと思います。	
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 校内研究を充実させ、特に算数科における主体的・対話的な授業改善を図る。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4:保護者アンケートによる「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」への満足度が90%以上 3:保護者アンケートによる「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」への満足度が80%以上 2:保護者アンケートによる「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」への満足度が60%未満	◎算数科における「主体的・対話的で深い学び」についての研修テーマを掲げ、児童には、説明して自分も分かる、友達も分かるという実感ももてるようになり、意欲的に発言する児童が増えた。 ACTを活用して説明する力もついた。結果、大田区学習到達度測定から、平成30年度と比較すると、4～6年生において、1.9ポイント上昇した。 ◎自分の考えを図や式や言葉で表現することができるポイントが平成30年度より、+5.1ポイント上がった。 ○ICT研修は毎週木曜日15分が継続され、自主的に自分のスキルを広げる学びが文化が育ってきた。 ●今後、学習カルテや学習チェックシートを活用して、学習の苦手な児童についてさらに指導方法を個別化したり、教員を教員同士が共有化する。 ●授業の土台となる言語力の向上に向けて、さらに読書、読解力を育てることも課題である。	・基礎基本が大切な算数を3年間研究した成果が出ている。公開授業でも「主体的」を引き出す授業が展開され、見学者を納得させる先生方の力も、その成果を強く感じた。 ・児童全員が理解することは難しい。考えさせ、また、そのことを発展させて指導することの大変さを会話によって補足することを望みます。 ・先生が一方的に授業するのではなく、子供たちに答えさせるようになっていく授業でした。子供たちも積極的に答えていた。 ・学校公開からも教員一人ひとりの努力がうかがえ、主眼的な子供たちの様子から、コミュニケーションの向上にもつながると思います。 ・補習学習の結果を活用し、個別指導に成果を上げてほしい。	
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心や、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状の目られる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 道塚スタンダードに基づき、学校のきまりを守ろうとする意識を育てる。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をできなかった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:保護者アンケートによる「基本的なしつけや子供たちの問題に対する対応」への満足度が90%以上 3:保護者アンケートによる「基本的なしつけや子供たちの問題に対する対応」への満足度が80%以上 2:保護者アンケートによる「基本的なしつけや子供たちの問題に対する対応」への満足度が60%以上	◎特別支援に関するケース会議を開き、支援が必要な低学年児童を保護者の理解と合わせて、サポートルームの活用を図る。教員の特別な支援を必要とする児童への対応力があがった。 ◎学年・学級の安定した指導によって、どの学年も大きな進歩につながった。特に12月の全校調査では、友達関係について不安な児童からの訴えについても、教員が丁寧に聞き取り対応を共有することができた。 ●今後は、不登校児童児童への早期の支援と、外国籍への国語力の不足の補いが課題である。 ◎児童一人一人のよいところをクラスから認められる学習経験や授業をすることで未然防止できる。校内での研修がさらに必要である。	・様々な家庭環境に加え格差が広がりがちである中、心の指導は難しくなる一方と感じ、先生方のご苦労に心が痛みます。一方で、聴き取り調査やサポートルームの活用や対策で救われる児童がいることは明るい希望です。 ・家庭と学校とで共有することによって決まらずに難しいと思う。 ・心を育てるためには読書が良いのですが、親が好きであれば子供はそれを習得するはず。図書室の利用をすすめてほしい。 ・子供たちの遊びが、どこまでふざけているのか、いじめになるのか、子供本人の意識の違いを把握できるとよい。 ・スマートフォンの普及により、SNSやネットに直結する技能が年々低年齢化していると感じ「友だち」に対する関係性のとらえかたに不安があります。日常の友だちを目の前にいる友だちとし、様々な体験から自信を考えられる子供であって欲しい。多様な家庭背景、支援や理解を求められる児童と向き合う教員も努力に感謝しています。	
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 各学期毎に長縄・短縄を使った、日常の運動量を図る取り組みを実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、90%以上 3:児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、80%以上 2:児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、60%以上 1:児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、60%未満	◎早寝早起きカードを使った定期的・継続的な指導がされている。家庭との連携がとれている。 ◎オリパラに合わせ、外国のメニューを給食に取り入れ食文化に興味を持ってもらっている。 ●担任による食育のカリキュラムはあるものの計画的に実施できない。 ◎体育部主催の朝の「体力テスト」運動、ランタイムなど、効果が上がっている。また、児童の自主的な意欲を引き出している。 ●体育の授業の運動量の確保と個々の能力にあった場づくりが課題である。	・外で思い切り遊び、自然に大部分の体力をつける環境が減少している中で、ランタイムや長縄はその役割を担っている。それらに向かう子供達の目が輝いていることを嬉しく思う。 ・栄養士からの手紙で、日頃の給食や食育の様子がよくわかる。 ・ドッジボール、マラソン等の活動が活発。 ・環境によって育つということが昔から言われていた。食は特に親の影響を受けるので、親から考えなくてはならない。その辺をどうしたらよいか？ ・先生方の生活指導ができていてと思う。 ・体を使った日常の遊びは、じかにスペースが必要であり厳しい環境と思います。家庭を軸とした基本を保護者にも求めたいところです。	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくりをします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しLOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 週に一度の校内研修日を設け、ICT研修をはじめ模擬授業・授業改善情報を提供し合う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「おおむね」はほぼ全員に参加したと全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が90%以上 3:保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が80%以上 2:保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が60%以上 1:保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が60%未満	◎研究発表を成功させ、授業観察・研究授業の回数も増え、それらを通して算数科の対話について指導力が向上した。 ◎校内委員会では、計画的にサポートルームが必要な児童を家庭やスクールカウンセラーと連携できた。 ●新しい教科の準備としてのプログラミング教育や外国語など、今後も校内のLOJTの時間を意図的につくり続けることが必要である。	・対話力で指導ができる力に加えて、教員自身の行動と態度が日常の中で子供たちを導いている。 ・先生方の指導方法は子供たちにもわかりやすくなっていると思う。 ・研究発表等大変な一年間、お疲れ様でした。気の休まることがない職業ですが、よろしくお願ひします。 ・先生方の取組が大変良くわかり、研究発表会はずばらしい授業でした。 ・研究発表は長時間の観察と有識者の協力により成し遂げられるものと思います。また、すぐに成果が見られるものでもないことから、持続的な取り組みが児童の将来へ影響すると考えます。教員間の情報共有による協力をお願いします。	
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的な情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 地域やPTA等教育機関と連携し、児童のあいさつが学校内外で自主的にできるよう働きかけた。 保護者会・個人面談・日常的な連絡などを通して、児童の様子を家庭に連絡することを通して未然に不登校などの問題を予防した。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が90%以上 3:保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が80%以上 2:保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が60%以上 1:保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が60%未満	◎計画的に「学校だより」「学年だより」「保健だより」「給食だより」などを発行することができた。今後はさらに分かりやすく、月末から20日前後に発行するように努力したい。 ◎地域連携協議会の協力をうけて多くの外部講師を活用した、土曜教室ができた。また、学校支援理事会の長年の活動が表彰された。 ●学校のホームページを更新する仕組みが整った。今後情報発信が滞ることがあった。今後情報部の業務内容の見直しと体制を改善する。 ●地域・PTAとの連携行事にやや児童、教員の参加が減少傾向にあった。今後は連携行事を学校の教育課程に位置づけたいよう活動になるよう検討中である。	・教職員の働き方改革を進め、更に地域やPTAとの連携をも図るという今後の学校の方向に、保護者・地域が賛同してよい形になるよう願ひします。 ・学校だより等で日頃の様子を知ることができた。 ・地域での行事に参加していただくために、学校への連絡、掲示板等で呼びかけて努力に参ります。 ・地域と学校との連携が、もっと地域やPTAに協力を要請してもよいのではないかと、いつもきちんと挨拶してくれる子供が多く、関心いたしました。 ・EMP初代コーディネーターとしてが表彰を受けたことを大変嬉しく思います。「次へつなぐ」を意識して当時活動していたことを思い出しました。毎年、様々な見地や経験をもちた方による講演が行われ、大変有意義な内容であり、子育てに役立ちます。より多くの保護者の参加を希望します。 ・地域ボランティア(地域力)を活用して、学校をさらに良くする仕組みがあるとよい。		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○「学校関係者評価」の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はほぼ適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不明である について、評価に人数を記載する。